

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成17年11月4日(2005.11.4)

【公開番号】特開2001-81215(P2001-81215A)

【公開日】平成13年3月27日(2001.3.27)

【出願番号】特願平11-264153

【国際特許分類第7版】

C 08 J 7/00

B 32 B 27/36

B 32 B 31/20

C 08 J 5/18

C 08 L 67/00

C 08 L 77/12

【F I】

C 08 J 7/00 301

C 08 J 7/00 CFD

B 32 B 27/36

B 32 B 31/20

C 08 J 5/18 CFD

C 08 L 67/00

C 08 L 77/12

【手続補正書】

【提出日】平成17年8月9日(2005.8.9)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0049

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0049】

(5)耐摩耗性

耐摩耗性は、フィルムの表面に、表面を布で覆った10×15mmの大きさの摩耗子を載せ、500gの荷重を負荷しながら、30mmの距離を往復して1時間連続走査し、摩耗子に付着するフィルムの量により評価した。そして、フィルムが多量に付着し、その量が50mg以上の場合を×、フィルムが全く付着せず、その量が0mgの場合を、その中間をとして表した。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0062

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0062】

以上の比較例に対し、実施例1～4に示すように、多段階所望にわたる熱処理を施すことにより、フィルムの耐熱温度は、熱処理前のもの(比較例1)に対し100以上も高い350以上にまで高められる。このため、FPCへの部品実装時に、該FPCをハンダ浴に浸漬するような場合でも、変形などが発生せず、良好な実装が行える。しかも、実施例1の(3)から明らかのように、フィルムは熱処理により処理時間を長くすると溶解ピーク温度TAが順次上昇し、これに準じて熱変形温度Tdefも上昇するので、フィルムの第n段階での熱処理によって、もはや溶融しない状態のフィルムを得ることもできる

。また、実施例 1 ~ 4 に示すように、多段階にわたる熱処理を施すことにより、耐熱性および耐摩耗性に優れ、しかも接着強度および寸法安定性に優れた積層体が得られる。